

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

[I] 今回は北海道知事宛に、提出予定で、準備を進めている要望事項(会報12号に掲載)の第②項 <熊に関する正しい知識を啓蒙すること>の、(a) <人身事故対策について>

の文章を下記にご紹介します。

<掲載文章>

(山菜採りにはハイスルと鉈を持参すべきこと)を啓蒙する必要がある。

道の「あなたとヒグマの共存のために」と言う道民向けのパンフレット(下記に掲載)には「熊に襲い掛かれたら(これは爪や歯で襲われている状態を言う)、首の後を手で覆い、地面に伏して死んだふりをして下さい。山に入る人は万一に備えて練習して下さい」とあるが、これは全く間違った対処法である。まず熊の攻撃に意識ある状態で無抵抗で耐え得る人間など何処にしようか。これを書いた当事者に聞きたいものである。熊に囓られ爪で引っ掻かれれば意識あれば反射的に抵抗するもので、これに耐え我慢せよと言うのは、正に妄言であり、責任ある当局が言うべき事ではない。熊が人を襲う原因は、排除、喰う為、戯れに、3大別され、北海道で1970年から今日(2013年5月末)に至る44年間に、猟師以外の一般人が、熊に襲われた件数は48件あり(発生件数は年平均1.09件)、内死亡が20件、生還が28件である(北海道野生動物研究所 website に公表)。死亡の20件の内、武器で熊に反撃したのは1件のみで(1976年12月2日、下川町で、長さ1.5mの鉈鎌で、反撃したが、鉈鎌の柄が長すぎて熊に抱きつかれ、攻撃され死亡)、他は皆素手で熊に対抗し殺されている。これに対し、生還した28件の被害者は皆、鉈・包丁・手鎌や拾った石を掴んで、(被害者は皆無我夢中で熊に抵抗したと証言している)熊に積極的に抵抗反撃し生還している。

襲い掛かって居る熊に反撃すれば、熊が更に猛り、被害が大きくなるのではないかと、想像で反論する者がいるが、過去の事例を検証した限り、そう言う事例は全く無く、それは杞憂に過ぎぬ事は明白である。

熊ばかりでなく、動物に襲われて、その難から身を守る原則は相手に対し積極的に反撃することが原則であることは、人を含む動物界における基本原理常識である。

今年も道内で4月に2件の熊による人身事故があったが、4月16日の瀬棚町での、山菜(カク

り)採りの女性は鳴り物も武器も不携帯で、熊に襲われ四肢の筋肉部を喰われ死亡した。それに対し、4月29日の 静内町での、山菜(アハネ)採りの男性は、熊に襲われ胸(両乳頭内側に各1個の爪による浅い傷)と背右腰部上に2個の浅い爪による傷を受けたが、普通の紙切り鋏(全長20cm程)で反撃し、難を逃れている。この実態からも、熊に襲われての生還には刃物での反撃が有効な事は明白である。そこで、我々が推奨したいのは、戦前から山子が持ち歩いていた鉈である。鉈は我が国で誰もが合法的に携帯し得、しかも熊に襲い掛かれた場合の有効な武器であり、鉈の携帯まで踏み込まなければ、熊による死亡事故は現状より減少させ得ない事を認識すべきである。また、鳴り物について言えば、ラジオは音が出っぱなしで、熊との遭遇(異変)に気づき難いこと、小型の鈴は音が沢音でかき消され熊に音が届かないことがあるから不適で、ホイッスルが最適であることを我々は提言したい(10数分毎に2~3回ホイッスルを吹けば、その音は山中にこだまし響く)。熊に対する有効な正しい対処法を道民に啓蒙すべきである。そうすることで、発生件数年平均1.09件の熊事故も大幅に減らすことが可能となろう。それにしても、道庁の熊対策のパンフレットに「熊に襲われたら、死んだ振りをせよ」と書かれて居るのには、全く無知と言うか驚きで、早急に改めるべきである。

大声、走って逃げる、石投げは自殺行為です。

クマを刺激しないことです。木に登ってやりすごした例もあります。まず落ちついて状況を判断することです。

子グマを持ち帰ろうとするのは自殺行為です...

子グマの後ろに必ず親グマあり!

子グマをみつけたら絶対に近づかないことです。すみやかに立ち去ってください。不用意に近づくと母グマの攻撃をうけます。

なお、子グマは生後1年半~2年半まで、大きさにして大型犬以上になるまで、母親といっしょに行動します。

これで完全という方法はありませんが...

襲いかかられたら...

北米では、首の後ろを手で覆い、地面に伏して、頸部、後頭部への致命傷を防ぐ方法を勧められています。道内の死亡事故でもこの部位が致命傷となっている事例がみられます。

また、クマ撃退スプレーが、ある程度有効であることも知られています。

一番大事なことはクマに出会わないことです。

0000 情報BOX

●ヒグマの食物
ヒグマは主に草や果実、木の実などの植物質のものを食べます。
春はフキなどの草本類、秋はドングリ、ヤマブドウ、コクワ等の木の実をたくさん食べます。

大声、走って逃げる、石投げは自殺行為です。

クマを刺激しないことです。木に登ってやりすごした例もあります。まず落ちついて状況を判断することです。

襲いかかられたら...



(参考 Herrero (1985))

北米では、上図のように、首の後ろを手で覆い、地面に伏して致命傷を防ぐ方法を勧められています。

また、クマよけスプレーが、ある程度有効であることも知られています。

※ここまでに書かれていることはいずれも完全な方法ではありません。内外の研究と経験からとりあえず有効であると考えられる方法です。

クマに出会わないことが一番大切なことです。

0000 情報BOX

●子グマの後ろに必ず親グマあり!
●子グマをみつけたら絶対に近づかないことです。すみやかに立ち去ってください。決してたっこしようと思わないことです。
●子グマは生後1年半~2年半まで、大きさにして大型犬以上になるまで、母親といっしょに行動します。
●クマの食物
●クマは主に草や果実、木の実などの植物質のものを食べます。春はフキなどの草本類、秋はドングリ、ヤマブドウ、コクワ等の木の実をたくさん食べます。

大声、走って逃げる、石投げは自殺行為です。

クマを刺激しないことです。木に登ってやりすごした例もあります。まず落ちついて状況を判断することです。

襲いかかられたら...

安全姿勢をとって下さい。



(参考 Herrero (1985))

上図のように、首の後ろを手で覆い、地面に伏して死んだふりをして下さい。山に入る人は万一来備えて練習して下さい。手近な棒やスコップ、ナタ及びクマよけスプレーなどで反撃して助かった例もあります。

※ここまでに書かれていることはいずれも完全な方法ではありません。内外の研究と経験からとりあえず有効であると考えられる方法です。

クマに出会わないことが一番大切なことです。

0000 情報BOX

●子グマの後ろに必ず親グマあり!
●子グマをみつけたら絶対に近づかないことです。すみやかに立ち去ってください。決してたっこしようと思わないことです。
●子グマは生後1年半~2年半まで、大きさにして大型犬以上になるまで、母親といっしょに行動します。
●クマの食物
●クマは主に草や果実、木の実などの植物質のものを食べます。春はフキなどの草本類、秋はドングリ、ヤマブドウ、コクワ等の木の実をたくさん食べます。